村人達も、秋仕事が終ると、正月用に、子供達の帽子や、雪下駄を買ってやる為に、手間賃稼ぎに、砂利採りの仕事をしていたんだと。その頃は、今の庄條村長のひい爺さんがな、その砂利採りの仕事を請負っていたそうな。一間四方の木の升に、振った砂利を、一杯いくらで、皆んな働いていだど。

そしてなあ、五、六年位経った頃、なかっつぁまに住んでいた爺様が、どこが悪るがったか詳くは分かんねえげんじょも、コロッと死んじまったど。大概の家ではな、葬式して、お墓に埋めるのが普通だげんじょも、土地もねえ、お墓もねえ爺様は、仕方なく火葬にして、婆様は、骨箱を大事に守っていたと。暫く経ってがら、婆様が、ぽつんと言ったど。

「おら達はな、新潟の山奥から、事情があって出て来たげんじょ、銭がねえので、仕方なく、このなかっつぁまに住むしかなかった。」と。

そしてな、自分は〝栗田〟というだと、名乗ったそうな。

爺様がいなくなった婆様は、トラ猫をたった一人の身寄りとでも思ったのか、それはそ